

報 告 書

(三 浦 班)

開 催 日 時	令和元年 5 月 14 日 (火) 午後 7 時～8 時 30 分	
開 催 場 所	三隅公民館	
出 席 議 員	田畑 敬二 副議長、佐々木 豊治、布施 賢司、上野 茂、 小川 稔宏、川上 幾雄、三浦 大紀	
	司会者	三浦 大紀
	予算報告者	小川 稔宏
	ファシリテーター	布施 賢司、川上 幾雄
	記録者	佐々木 豊治、上野 茂
参 加 人 数	32 人	
主な要望・提言等	<p>テーマ 1 (高齢者の移動手段の確保)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タクシー券を配ってほしい。 ・ひゃこるバスの便数を増やしてほしい。路線の見直しをしてほしい。路線の危険木の伐採をしてほしい。 ・ひゃこるバスの便数が少ない。住民が協力して買い物などに連れて行ってほしい。 ・ひゃこるバスでは行けるところが少ない。近所の人に「乗せて」と頼むのは気兼ねする。息子に頼む。人には頼みづらいので、出かけられる環境作りができないか。 ・ひゃこるバスの回送の車に乗せてもらえないか。 ・まちづくりの活動で求められていることや方法を勉強するために参加した。 ・井野地区は有償運送を昨年 4 月から始めた。利用者は 73 名でドアツードアでやっている。買い物もついて行って荷物も持ってあげ、家まで運んでいる。これまで 354 便を運行してきた。利用者はのべ 552 人。車は市の貸与 2 台、ドライバーの車も 2 台登録。稼働は 154 日。 ・今は車に乗っているが、今後井野地区のような移動手段がほしい。 ・タクシー券の配布も良いが、便乗してのれるようなタクシー券もほしい。 	

主な要望・提言等

- ・ひゃこるバスの朝が早く、買い物ができない。サンプルラムや農協がまだあいていない。待つ場所も欲しい。
- ・バスの便を増やしてほしい。小さくてもよいから。
- ・バスに乗れる人は元気な人。羽原は100円で乗れ、行き場所に制限がない。大麻は水曜日だけでサンプルラムとトライアルまで。民間で夜8時まで乗れる100円タクシーがある。誰でも始められ、資格もいらない。ガソリン代は出る。そんな人が増えればよい。500円有償運送は資格がいる。
- ・井野の利用状況は1便あたり1.6人。経費はまちづくりから70万円、市から35万円でており赤字にはならない。運転の人件費は1便1,000円。ドライバーは20人いる。問題点はドライバーの確保で高齢者が半分以上。今年度、新規のドライバーが6人入った。運営委員会で小さな問題は解消している。やってよかった。前日の5時までに予約してもらおうが、急な対応もしている。運営は地元で行う。事務局は5人、月3万円の手当。ひゃこるバスへの影響はあまりない。ひゃこるバスは200円で安い。保険に入っているがこれまで事故はない。ドライブレコーダーも配備している。
- ・井野の考えは良い。路線など増やす前に、利用できないと意味がないので、利用者の意見を聞くことも大事。
- ・100円タクシーは利用がない。浜田自治区は除いている。利用はこれまでのべ20人くらい。
- ・利用者は感謝されている

(次ページに続く)

<p>主な要望・提言等</p>	<p>テーマ2（独居世帯へのケアと高齢者の居場所づくり）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミステーションへ行くのに国道を渡られる高齢者がいる。戸別収集や分別の簡素化を求める。 ・町内会活動の充実について、誰もが参加できる町内活動にすることが必要。 ・「サスケ」の活用は安否確認によいので、いろんな組織にアピールし拡大を。 ・「サスケ」の加入が伸びない。本人でなく親族に知ってもらう工夫が必要。 ・独居老人の安否確認の手段として、近年湯沸かしポットの使用でわかる。市も検討してはどうか。 ・サロン活動をしているが、今後続けるために皆さんの声が聞きたい。 ・デイサービスからの情報がほしいが、ケアマネさんとの情報交換ができない部分もあるのが課題。実施日の調整ができればよいが。 ・民生委員として安否確認をしている。月1回の常会または公民館活動等にもなるべく参加を呼びかけている。 ・夜間の安否確認は困難。夜中に電話がかかると出かける現状は大変。 ・サロン4か所で限界、きめ細かい活動ができるように市の補助が必要。 ・独居世帯が、何に困っているのか分からない。民生委員は分かっていると言わない。 ・何をするにも金と人材が必要だ。 ・若い人が少なくサロンを作ってもスタッフがいない。自分のことで精いっぱい。 ・サロン活動は、空き家活用をして、歩いていける集会所を作ることが必要。 ・遠方の親類との連絡状況の伝達（安否確認）メール発信している。
-----------------	--

主な要望・提言等

- ・年齢制限なしのサロン、子供も高齢者、地域みんなで支え合うようにしている。
- ・町内活動の充実、役が回ってくるので常会に行くのが嫌がる、受けたら次の世代に渡せない。
- ・地域で問題点を探ることが大切、役職者に頼らず。
- ・独居で高齢者の心配ごとやニーズがわからない。
- ・高齢者の居場所づくりには人材とお金が必要、自主活動が大事。
- ・独居の方のごみの分別は大変である、戸別収集分別の方法など猶予は。
- ・場所としての居場所と「役割」としての居場所（必要とされていること）。
- ・昔遊びで子どもとの交流をもっと増やすと高齢者も喜ぶ。
- ・保育所・小学校を訪問し、孫がいなくても気軽に参加できるような仕組みがほしい。
- ・その人の特技を生かした居場所づくり、高齢者の方が訪問し物づくり、昔遊びをできたらいい。
- ・読み語りを子どもたちの前でしている。声をかけていただけたら行く。
- ・移動手段が問題だ。高齢ドライバー事故防止のためにも。
- ・常会等移動もほとんど車で送迎している。
- ・サロンに行きたくてもいけない人がいる、互助で運ぶ人を確保しなければならない。
- ・高齢者の居場所に集会所を指定しても運営スタッフの確保が難しい。
- ・高齢者サロンをしているがそれぞれの方がデイサービスと異なるので実施日を決めるのが困難。
- ・サロン活動をしているが参加しない人はそのままになっている。どうするかデイサービスからの情報がほしい。
- ・居場所づくりについてミニデイがなくなり、遠くへ出向いたりされ身近で対応してあげることができない。

主な要望・提言等	【その他要望・意見等】 ・議会にもしっかき予算を確保するような取り組みをしてほしい。
----------	---

浜田市議会議長 川 神 裕 司 様

令和元年 5 月 23 日

浜田市議会報告会規程第 9 条第 1 項の規定により提出します。

三浦 班

代表者 三 浦 大 紀